

# コロナ禍の大学生

—何が「奪われて」いるのか—

佐々木祐

## **新型コロナウイルス感染症拡大による社会変化**

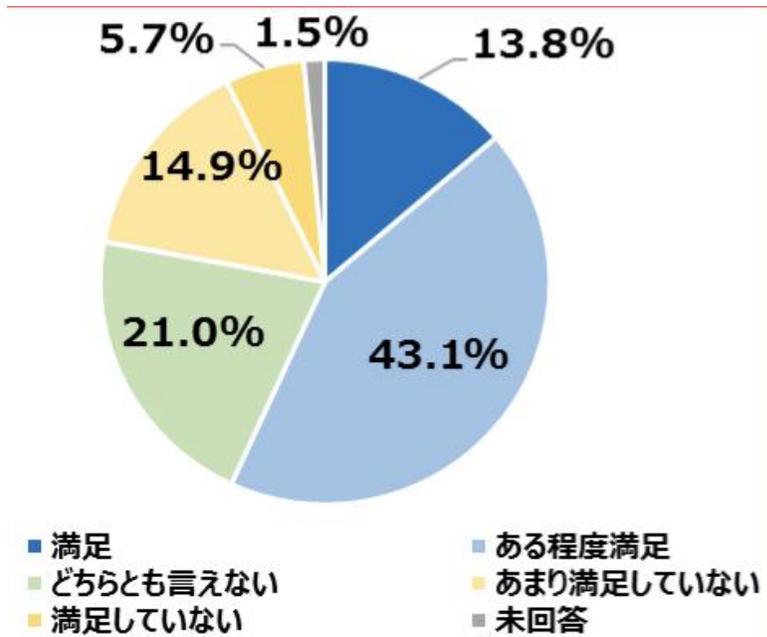
- とりわけ大学においては対面授業の制限=オンライン授業の増加、課外活動の制限として減少
- 出会いの機会や様々な学び・経験を制限された大学生を「被害者」として想定する傾向
  - =大学および教員の怠慢・無策が批判の対象に
- 文科省は大学に学生ケアを含めた対策を要請

**はたしてこうした構図（被害者としての大学生）はどこまで「本当」なのか？**

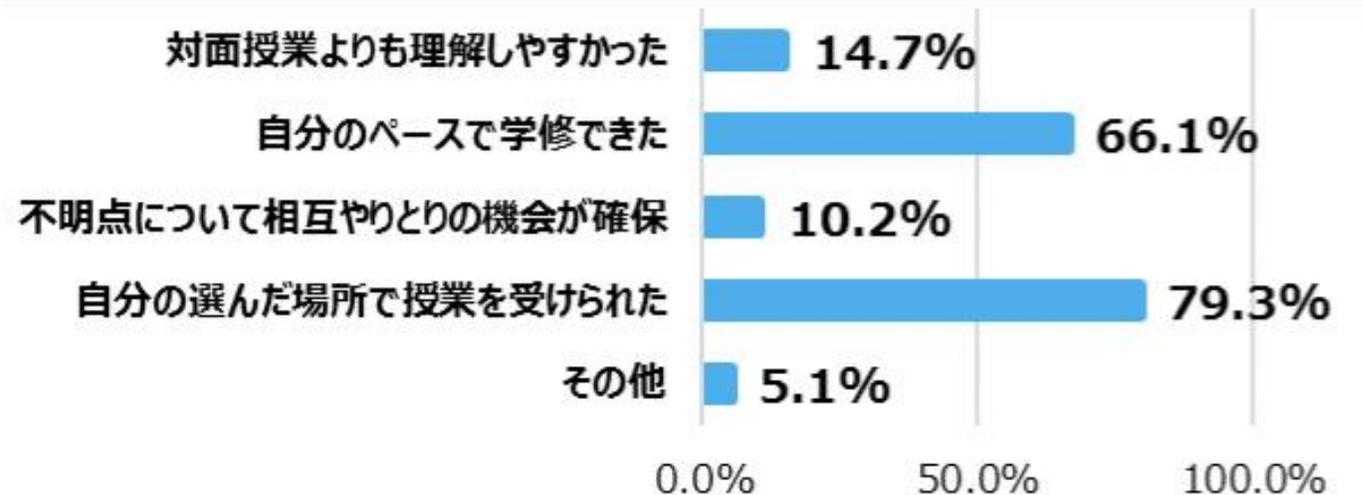
# オンライン授業だからかわいそう？

文科省「新型コロナウイルス感染症の影響による学生等の 学生生活に関する調査」 20210305-27  
[https://www.mext.go.jp/content/20210525-mxt\\_kouhou01-000004520\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210525-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf)

## オンライン授業の満足度※択一選択



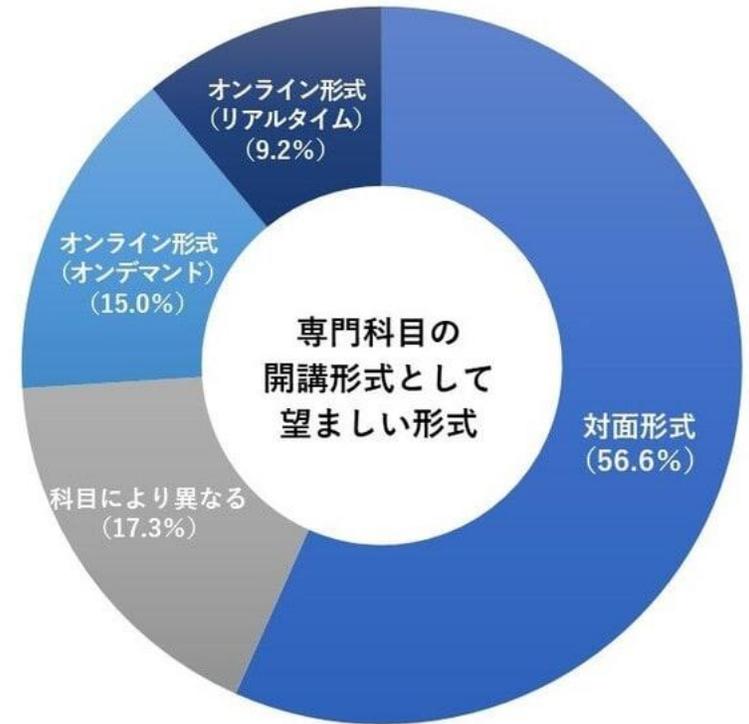
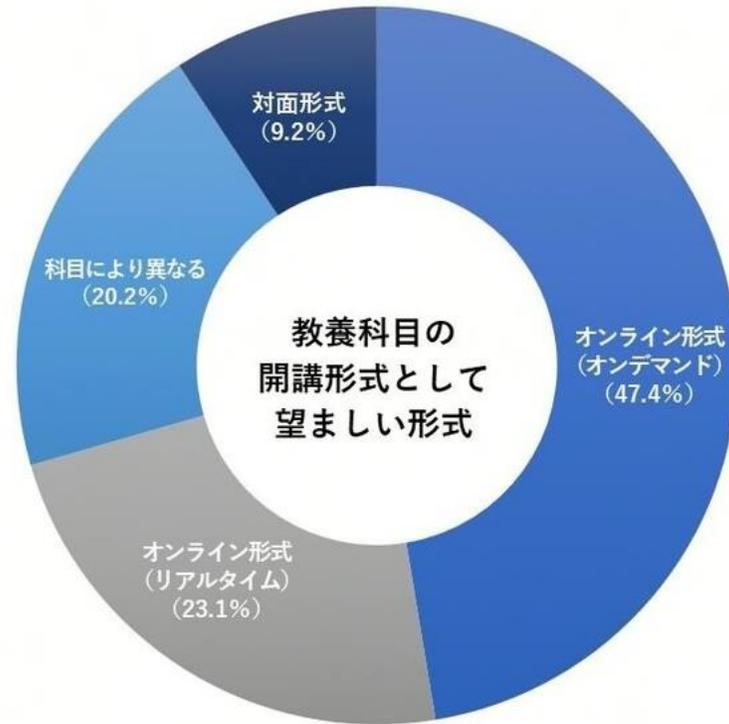
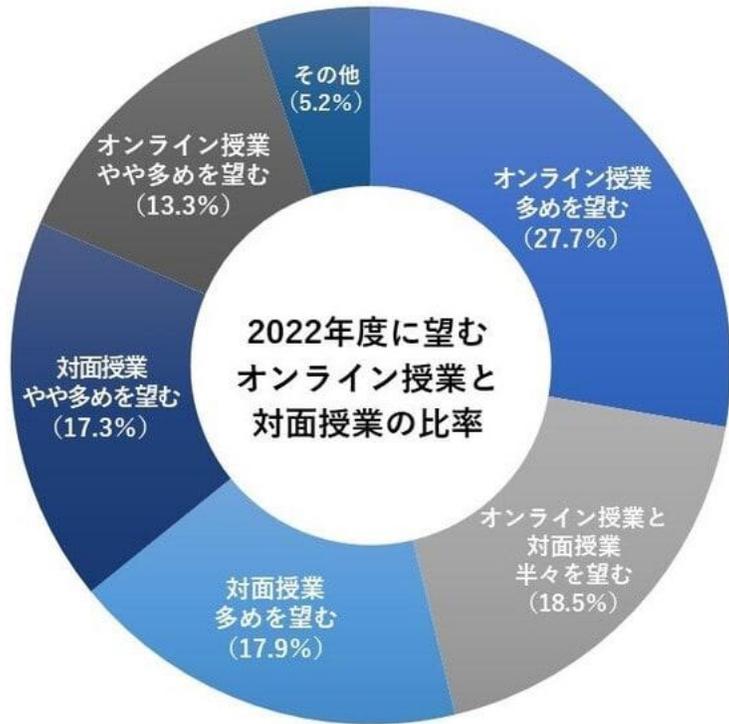
## オンライン授業の良かった点 ※複数選択可



→あれ、結構評価が高いんじゃ….

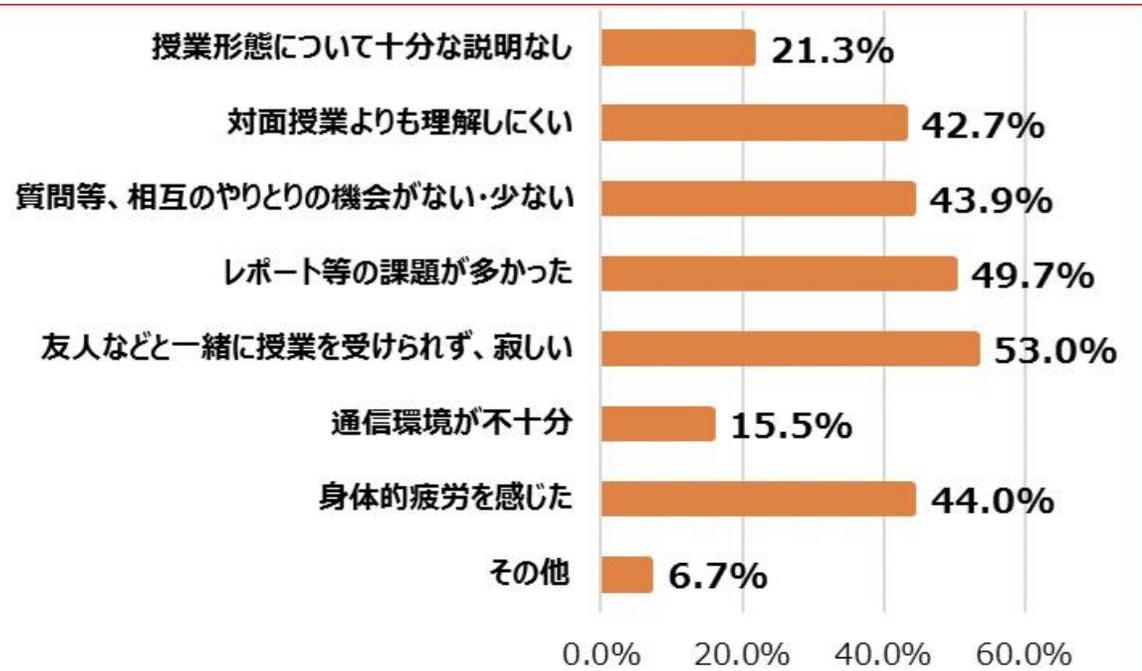
神戸大学ニュースネット「コロナ禍の教育と学生生活」調査より

[https://blog.goo.ne.jp/kobe\\_u\\_media/e/8be6ed21c39b9487113e39879034eed4](https://blog.goo.ne.jp/kobe_u_media/e/8be6ed21c39b9487113e39879034eed4)



## もちろん問題も多いが…

### オンライン授業の悪かった点 複数選択可



教員・学生双方が新たな授業形態に慣れていないことに起因する問題点が大半  
→容易に解決が可能

★なぜか文科省は問題点だけを取り上げて改善を要求

「理解のしにくさや、人との関わりがないことなど教育の質に関わる課題等により不満を持つ学生もおり(満足していない:5.7%、あまり満足していない:14.9%)、オンライン授業の実施に当たっては、学生の声を丁寧に聞き、質の向上に努めることが必要」(新型コロナウイルス感染症の影響による学生等の学生生活に関する調査)

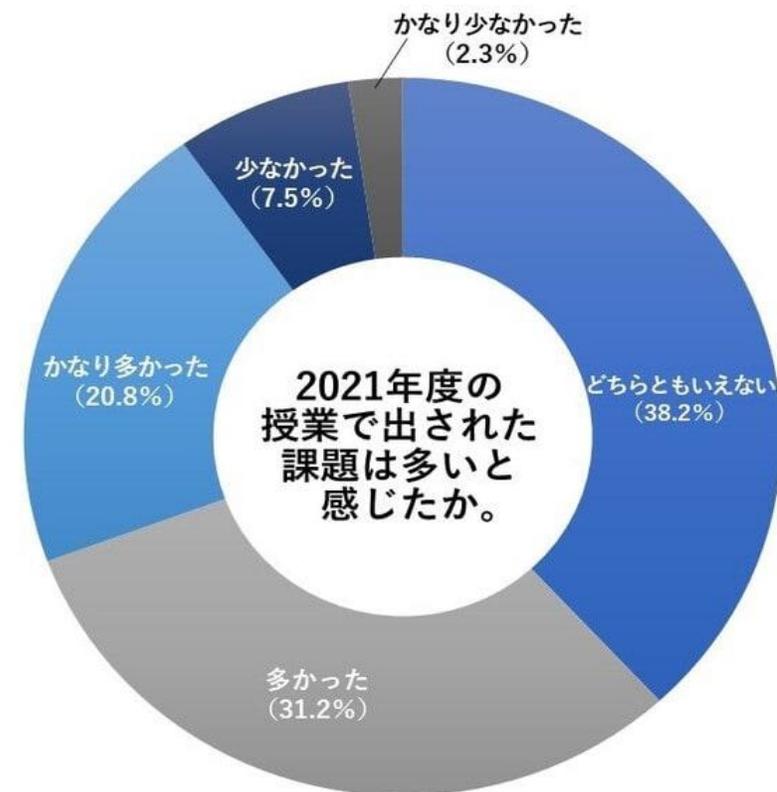
## さまざまな調査であげられるオンライン授業の問題点の代表例：課題の多さ

大学教育推進機構・神戸大学の遠隔授業に関する学生アンケート調査結果について  
202009 <https://www.kobe-u.ac.jp/documents/info/usr/press/20201127-01.pdf>

神戸大学ニュースネット「コロナ禍の教育と学生生活」調査より  
[https://blog.goo.ne.jp/kobe\\_u\\_media/e/8be6ed21c39b9487113e39879034eed4](https://blog.goo.ne.jp/kobe_u_media/e/8be6ed21c39b9487113e39879034eed4)

遠隔授業に関する問題「その他」記入欄に書かれた回答内容(上位5つまで)

内容	件数	%
課題	103	24.5%
オンライン授業 (モチベーション・集中力低下等)	92	21.9%
通信	40	9.5%
授業	31	7.4%
情報/サポート	22	5.2%
計	421	



## 新たな講義形態に不慣れな教員の不安感の反映・自己確認という側面も

### 過重な課題 「学び」のためではなく「確認」のため？

バリュースクールの鶴田宏樹准教授は、学生から課題が多いという声が多くあがったことに対し、「授業の理解を課題を出すことで測らないといけないような雰囲気はある。学びのための課題というより確認のためではないか」としたうえで、「知識の獲得ができていても、それを使うための考える時間がないということが一番の問題だと思う。ものを考えることが大事なのであって、課題に追われるのはもったいないと思う」と話した。

教員は課題に追われる学生の存在を認識し、課題の量を一度見直す必要がある。ある大学関係者は、「会議で『課題の量を考慮してほしい』という話が出て、末端の教員まで浸透していない」と漏らしていた。大学側は、この構造を変える必要があるのではないか。

神戸大学ニュースネットHPより

[https://blog.goo.ne.jp/kobe\\_u\\_media/e/de501787bb433e3b961b22fd9db4f413](https://blog.goo.ne.jp/kobe_u_media/e/de501787bb433e3b961b22fd9db4f413)

## だが「学修時間」の画一的な遵守を要求したのは誰だったか？

### 【大学設置基準】

(単位)

第二十一条 各授業科目の単位数は、大学において定めるものとする。

2 前項の単位数を定めるに当たっては、一単位の授業科目を四十五時間の学修を必要とする内容をもつて構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

→この規定を遵守するならば、2単位を取得するのに、**授業時間2時間（と計算する）に加え、授業外学修4時間**が必要となる。

## 文学部生になったら — 在学生・卒業生に聞く —

萩原 佑悟

(Hagihara Yugo 4年生)  
大阪教育大学附属高校  
天王寺校舎卒業

(この文章は、2年生時のものです)



### 1週間の時間割

	月	火	水	木	金
1	科学史A	数学B	西洋史演習	東洋史	
2	神戸大学史A	阪神淡路大震災A	ものづくりと科学史A	西洋史	社会学概論
3	東洋史	西洋美術史		ロシア語	西洋史演習
4	英語	西洋史演習			
5					

松尾 弥悠

(MATSUO Miyu 3年生)  
立命館高等学校卒業

(この文章は、1年生時のものです)



### 1週間の時間割

	月	火	水	木	金
1			English Communication		初年次セミナー
2	English Literacy		健康・スポーツ科学実習		知能システム入門
3	哲学入門	社会文化入門	情報基礎	史学入門	
4	文学入門	中国語初級		中国語初級	
5					

**1週間あたり48-60時間、1日平均9-12時間（土日は休むとして）の授業外学修が必要  
→あれ…、死なない……？**

神戸大学文学部広報誌「LET」2022より <http://www.lit.kobe-u.ac.jp/let/pdf/LET2022.pdf>

# 中退・休学者が多くてかわいそう？

新型コロナの影響で大学などを中退  
昨年度の1.4倍に増加

2022年3月5日



新型コロナの影響で、今年度（2021年度）12月末までに全国の大学などを中途退学した人は、昨年度（2020年度）の1.4倍に増え1900人余りに上ることが文部科学省の調査でわかりました。

調査は、文部科学省が全国の大学や短期大学を対象に行い、全体の96%にあたる975校から回答を得ました。

これによりますと、今年度（2021年度）4月から12月末までに中途退学した学生は2万9733人、休学した学生は6万4783人となりました。

このうち新型コロナの影響によると回答した人は、中退者は1937人と昨年度（2020年度）の同じ時期の1.4倍に増加し、休学者も5855人と1.3倍以上となっています。

新型コロナの影響だと回答した中退者の内訳を見ると「経済的な困難」は19.9%と昨年度（2020年度）から8.2ポイント減った一方で「学生生活への不応や修学意欲の低下」は10.3ポイント増え、30.3%を占めています。

文部科学省高等教育局高等教育企画課

「令和4年度の大学等における学修者本意の授業の実施と新型コロナウイルス感染症への徹底の対策に関する留意事項について」20220322

[https://www.mext.go.jp/content/20220318-mxt\\_kouhou01-000004520\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20220318-mxt_kouhou01-000004520_01.pdf)

「中退者・休学者のうちには、オンライン授業の実施等によりキャンパスへ通う機会が十分に得られなかったことで、学生同士や学生と教職員との人的交流が出来ていないと感じた者がいたことも考えられます。」  
「学生の立場に立ち、新型コロナウイルス感染症の影響下にあっても個々の学生の学修機会が確実に確保されるよう、各大学等における教育活動を実施いただくことが重要であると考えております。」

[https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/mext/detail/detail\\_15.htm](https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/mext/detail/detail_15.htm)

## 文科省・学生の就学状況（中退者・休学者）に関する調査 202103末

[https://www.mext.go.jp/content/20220301-mxt\\_kouhou01-000004520\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20220301-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf)

	2021年度	2020年度	2019年度
中退者数	29,733 (1,973)	28,647 (1,367)	36,016
学生数に占める中退者数の割合	0.99% (0.06%)	0.97% (0.05%)	1.22%

括弧内はそのうち新型コロナウイルス感染症の影響によるものだと回答があった者の数

→コロナ禍前より大幅に減少している。昨年度からの増加についても、母数の規模（約300万人）や増減を考えれば統計的に有意とは言えない。

（一連の文科省・マスコミの「可哀想な大学生」像構築についての詳細な批判は、立命館大学・蒲生諒太氏のHPを参照のこと[https://sites.google.com/view/education-in-tommorrow/University-in-Corona/media\\_in\\_pandemic](https://sites.google.com/view/education-in-tommorrow/University-in-Corona/media_in_pandemic)）

## 中退・退学は「悪いこと」なのか？

→経済的困窮や心身の不調などによる学修機会の途絶はもちろん避けるべき

→自分自身について、自分の将来について、社会・世界の現状について深く考えた結果、退学・休学という途を選択したケースもある/あったはず

★文科省が要請する「個々の学生の学修機会の確保」とは一体なにか？

## オンライン授業で「奪われた」もの

- ・ 課外活動や講義外での交流：学生の不満の主要因
- ・ 新たな友人・人間関係構築の困難さ：オンラインの限界が露呈
- ・ 課題の多さよる時間的余裕：すぐにでも改善可能
- ・ 図書館など大学施設利用の制限：かえって価値を再認識？
- ・ 上回生や院生との交流：楽勝単位情報や進学情報
- ・ 教職員との交流：ってか、宴会

→ **大学・社会の真摯な対応が必要なことは言うまでもない**

## オンライン授業で「奪われた」もの

- ・ 講義の「外」に出る機会：「自己搾取」としてのオンライン授業
- ・ 講義を「流用」する機会：創造的行為としての「サボリ」
- ・ 「本来の目的」から逸脱する自由：「そうではない自分」になること

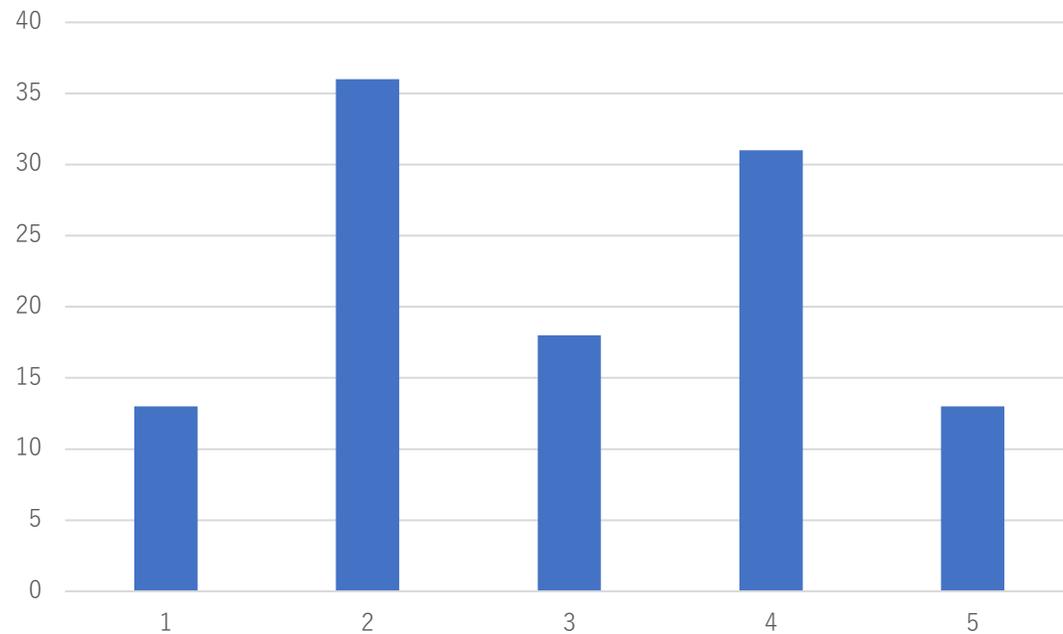
→ 「ダイガク」の「講義」そのものが提供すべき内容とは異なる種々の「価値」

## われわれが奪還すべきもの

- ・ 雑種性、猥雑さ、無駄、無規律、逸脱といった貴重な「ノイズ」
  - ・ オンライン授業によって実現された一元管理/自己監視システムの破壊
  - ・ 「目的外」のさまざまな出会いの場（≒宴会）
- **自己変革・相互変容を可能にする「危険な/の自由」を奪還・創造すること**

補足資料：コロナ禍による大学生の生活の変化に関する調査（2020年12月）  
対象・神戸市在住の大学生111人、オンライン調査

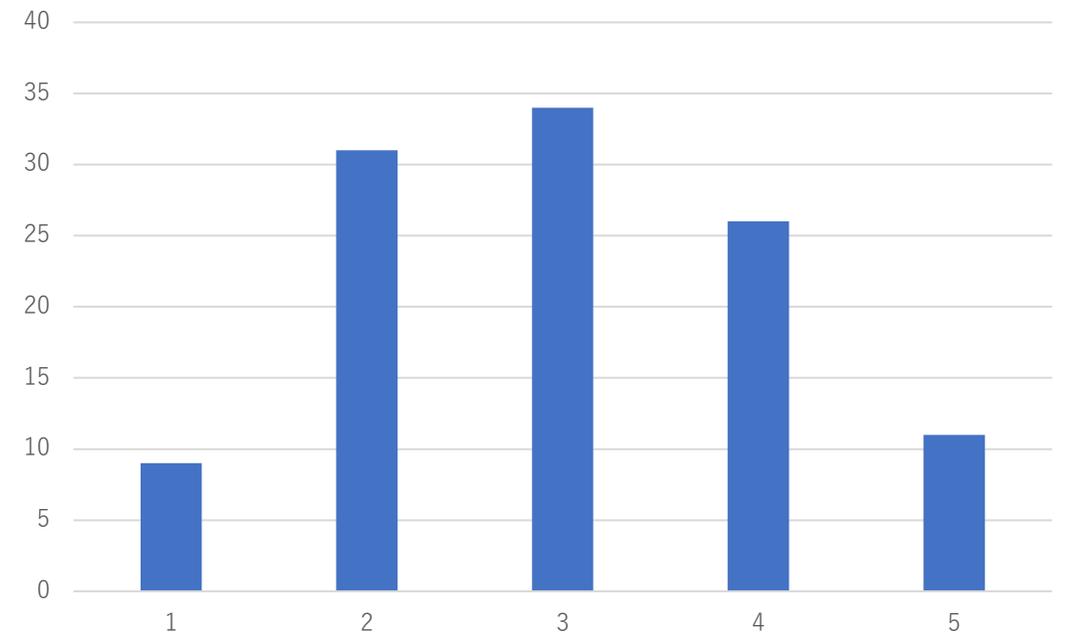
対面授業と比べ、オンライン授業（ハイブリッド含む）を受講する負担感を教えてください



とても大変だった

とても楽だった

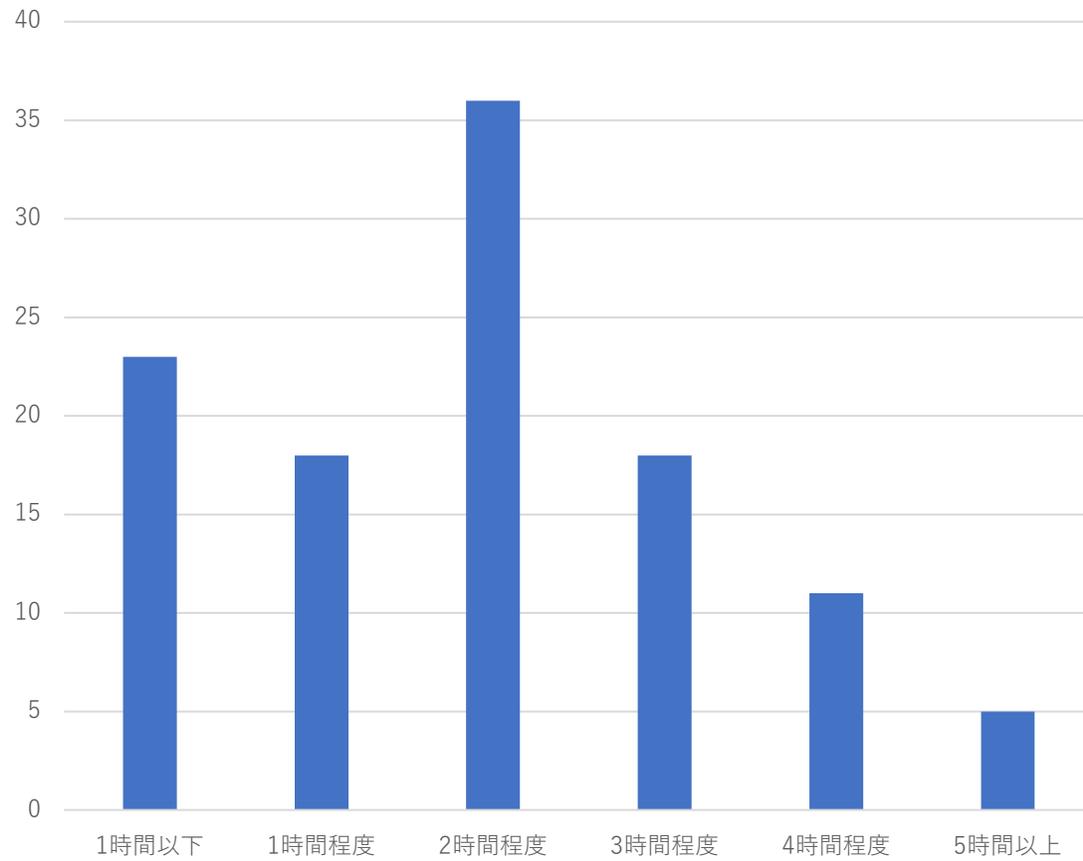
オンライン授業（ハイブリッド含む）になったことに対してどう思いますか



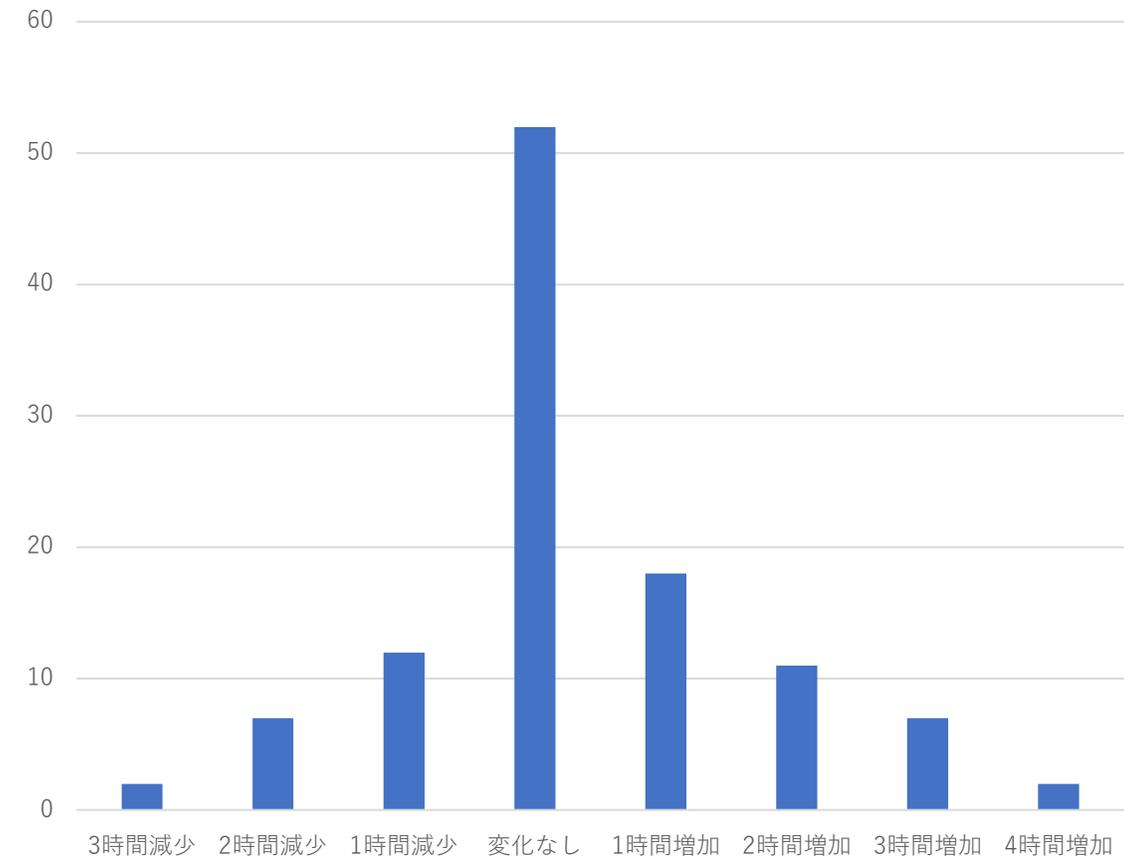
とても満足している

全く満足していない

コロナ禍での一日平均学修時間



授業外学修時間の変化



## 「ストレスが増えた」理由

課題の量が多かった、毎日新たな課題が増えていくことが対面ではなかった。いつもは飲み会などで友人と話すことによってストレスを解消していたが、それができなくなったため。また、あまり居心地のよくない実家にずっといなければいけないため。

色々と考える時間が増えたから

かつては、対面授業のために仲間達と学校で集まり、そこで行われる団欒でストレスのほとんどを解消していたので、コロナ禍で仲間達と会わない生活が始まると、ストレスの捌け口がなくなった。

自分と向き合う時間が増えたから。対外的にいい自分を演じている時間が減って、自分の粗が目立つようになったから。

人との交流が減り、気持ちが悪くなり、毎日やる気がなくなり、遅延症が増え、自己嫌悪感が増す。

コロナに対する価値観の違いですれ違うことが多くなったから  
貴重な学生期間にコロナが広まったという虚しさから

## コロナ禍での生活における変化

将来の不安の増加

遊びに出かけることに対して抵抗を持つようになったこと

生活のかなりの部分を占めていた部活動（軽音楽部）の活動がなくなり、他の趣味や勉強に使える時間やお金が増えたこと

考える時間が増えた

つねにはではないが、人と会わない一人の時間が意外と快適に感じるようになった。一人でいることが多くなった分対面で会話することの楽しさを感じることも多くなった。

体重の増加が著しい

第3波が来た頃、SNSで遠方に旅行する友人を見ることが多く、自粛する自分がバカバカしくなるなど、周囲との価値観の違いに苦しんだ

マスクやアルコールがあるか、持っているかなどについていつも頭のどこかで考えるようになった

心が死にました。

元々プライベートの時間はYouTubeを見たりするなど怠惰な性格だったが、長期に及ぶ自粛期間をどのように過ごすかが今後を分けると考え、自主的に様々なことに挑戦していくうちに、何事にも挑戦してみるクセがついた。

人生何があるか分からないので、先延ばしをしないようになった。

## コロナ禍での生活における変化

対面で話をすることの大切さを学んだ、人によって考え方が違うので我慢する面が増えた

人もウィルスも別の意味で怖いなと思った

人もウィルスも別の意味で怖いなと思った

対面で話をすることの大切さを学んだ、人によって考え方が違うので我慢する面が増えた

時間の使い方を見直すようになった

大学に自分は何を学びに行っているのか再確認した。

忘れ物や失くし物が多い自分には、オンライン授業はそういったことと無縁になれてとてもありがたく、充実した前期であった事を記憶している。後期は登校が多くなり、前期がいかに快適で学びやすい環境であったかを思い知らされた。

オンライン授業の方が、合わない人に会わなくてよくなったり、自分が頑張れる時間に授業を受けることができてよかった。

通学も含め、外出することが自分にとって意外と必要だと実感した。

#### 参考文献

小笠原博毅×福嶋聡, 2020, 『パンデミック下の書店と教室』, 新泉社  
ジジェク、スラヴォイ(齊藤幸平監修), 『パンデミック』, 日販アイ・ピー・エス株式会社  
筑摩書房編集部編, 2020, 『コロナ後の世界 いまこの地点から考える』, 筑摩書房